資料３

2010/4/13
東京成徳大学　神長美津子

平成 11 年以降の研究開発校における幼小連携研究

１、教育課程研究開発における幼小の連携研究の取組

○文部科学省では、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、幼稚園及び特別支援学校の教育課程の改善に資する実証的資料を得るため、昭和５１年から研究開発学校の制度を設けている。これまでの研究開発の成果の一つは、平成元年に告示された学習指導要領においては、小学校低学年の「生活科」の設置されたこと。

○研究開発学校では、学習指導要領等の現行の教育課程の基準によらない教育課程の編成・実施を認め、その実践研究を通して新しい教育課程・指導方法を開発。ただし、幼稚園においては現行の幼稚園教育要領の下で実施。

○平成 11 年以降､研究開発校において改めて幼小の連携研究が広がった背景　【参考資料１】

＊平成 10 年改訂幼稚園教育要領の「第 3 章指導計画作成上の留意事項１一般的な留意事項」において「(8)幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、・・・・略」が入る。→「小学校以降の生活や学習の基盤」に関心高まり、幼稚園教育から小学校教育への一貫した流れに関心が高まる。

＊幼児教育振興プログラムの策定（平成 13 年 3 月）幼小の連携、幼保の連携の推進→幼保小の連携研究が広がる

２　研究の内容・・・幼小の滑らかな接続についての取組

○　合同活動・合同学習を通してカリキュラム開発をする

平成 11 年度以降の幼小連携の研究開発では、当初、合同活動・合同学習を実施することをメインとし、これらを通して連携のための新たな教育内容を見出し、教育課程を編成。

＊「1 中央区立有馬幼稚園」では、子どもたちに出会わせたい身近な地域社会を『ありまフィールド』とし、『ありまフィールド』での活動を通して、小学校との連続性を図る。

＊指定を受けた学校園では、幼児児童の合同活動（学習）は活発に行われている。こうした合同活動（学習）の成果として、新たな教育内容が開発され、幼稚園と小学校のそれぞれの発達や実りの多い学習活動が展開。合同活動（学習）を通して幼小の教師間で子ども観、発達観や指導観が共有され、指導がつながる。特に「9 鳴門教育大学学校教育学部附属幼稚園」様々な合同活動（学習）を実践。(興味や関心を生かした学び)

○「幼小の接続期」に注目してカリキュラム開発をする

平成 14 年度香川大学教育学部附属幼稚園と附属坂出小学校第 3 年次報告以降、幼稚園から小学校への移行を「幼小の接続期」として教育課程編成や指導計画作成を試みる研究が続く。ただし、接続期の意義やそのカリキュラムの考え方については、それぞれに特色がある。

以下の 5 事例のうち、①②③は、3 歳児、4 歳児とは異なる姿を見せる 5 歳児後半の幼児の発達に注目し接続期を設ける。すなわち、幼児期から児童期への発達にそって移行を考えた接続のカリキュラムを作成する。④は、新たな学校段階での学習に子どもが主体的に取り組むようになるために必要なものとして接続期を設ける。⑤は、幼児期の遊びと児童期以降の学習をつなげるカリキュラムをめざして接続カリキュラムを作成。

①「3 香川大学教育学部附属幼稚園と附属坂出小学校」

・・・「クラス集団として課題を追求する学びのスタイル」

３歳児４歳児では、一人一人の子どもが小さな集団、気の合う集団、遊び集団の中で自分のやりたい課題を追求していく学びのスタイル＝「くらしⅠ」を大切にする。

５歳児では、「くらしⅠ」の積み重ねの上に子どもたちと教師がともに、クラス集団としての課題を追求していく学びのスタイル＝「くらしⅡ」も取り入れていく。

さらに、１年生では、５歳児で取り入れられたクラス集団として課題を追求していく学びのスタイル＝くらしⅡをより充実させ各教科領域等の学習が成立。しかし、1 年生の学びは、生活という大きな文脈の中で総合的に展開される幼稚園の学びのスタイルをできるだけ取り入れるようにして、幼小間の滑らかな接続を図る。

②「4 滋賀大学教育学部附属幼稚園と附属小学校」

・・・活動と学ぶ内容をむすびつける「中間型カリキュラム」

小学校の教科中心のカリキュラム「内容中心型のカリキュラム」に対して、幼児期を「活動中心型のカリキュラム」とし、魅力ある活動を通して様々な学びの機能を目覚めさせていく時期としている。特に、５歳児後期から１年生入学の頃、魅力のある活動と内容を結びつけていく「中間型カリキュラム」を編成し、幼稚園から小学校への滑らかな接続を図る。

③「8 岡山大学教育学部附属幼稚園と附属小学校」

・・・幼稚園は「10 の価値」を含む活動としての Active-u を構成

幼稚園 3 歳児から 5 歳児前半までは、幼児の発達や興味や関心に沿って９の要素（生活習慣、運動遊び、仲間意識、規範、コミニュケーション、自然事象、社会事象、表現活動、数量）にもとづき、遊びの中での総合的な指導を行う。５歳児後半から１年生にかけての接続期は、１０の価値（生活習慣、運動遊び、社会性、自然、空間、徳性、メディア、言語、表現、数量）にもとづき、遊びや生活の中で総合的に指導しこれらの価値に気づく体験を重視していく。接続期の指導計画は、幼稚園側ではあくまでも Active-u（複数の要素又は価値について幼児が目を向けるような活動のまとまり）より構成され、小学校側ではフィールド学習とステージ学習によって構成される。幼小いずれも子どもの興味や関心にそった学び（10 の価値）を重視する。

④「10 お茶の水女子大学附属幼稚園と附属小学校」

・・・・幼小の接続期を「主体的に学ぶ姿勢を育む時期」として捉える

幼小の教育課程の編成において、「幼小の接続期」を設け、滑らかな接続を図る。接続期は「人との関係や周囲の環境が大きく変化することにともない、子どもたちの戸惑い・不安・期待・緊張などを、教師が丁寧に受けとめ支えながら、教師や友達との豊かなかかわりを基盤に、主体的に学ぶ姿勢を育む時期」と捉え、5 歳児 10 月から、1 年生 7 月までを 3 期に分けて考えている。特に小学校入学から 7 月までを 2 つの時期に分けて考えていることが特色。安定した学校生活をいかに確保するかについてきめ細かに対応する。

⑤「15 新潟大学人間科学部附属幼稚園、附属長岡小学校」

・・・「幼児期の遊びを学習につなげるカリキュラム編成」をめざして幼小接続期を設ける

「科学的なものの見方や考え方」に焦点をあてた研究であり、幼小の接続期の在り方は、他の研究とは異なる。幼児期の子どもは、身の回りの環境と主体的に関わり遊ぶ中で、物事を理解し、自らの世界を広げていく力をもっている。このような自分の興味・関心のあ

ることを最後まで追求しようとするよさを小学校の学びに生かすことが子どもの主体的な学びになると考え、幼児期の遊びを学習につなげるカリキュラムを編成しようと「幼小接続期」を設けた。(5 歳児 11 月から１年生 7 月まで）幼稚園においては、自然現象の中にある数や形、量を見つけて遊ぶ。接続期においては自然事象の中の数や形、量を使うことによって自然事象とのかかわりを深めるようにする。

○「岡山大学教育学部附属幼稚園・小学校」と「お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校」の接続期のカリキュラムの考え方の比較　【参考資料２】【参考資料３】

＊接続期の考え方（理由・意義）

＊接続期の幼稚園部分の指導方法（興味や関心にそった学び・幼児の活動性を重視ものである）

＊何を学ぶのかについては、接続期の幼稚園部分と小学校部分は共通に考えていく

岡山大学教育学部附属幼稚園・小学校

１０の価値

（生活習慣、運動遊び、社会性、自然、空間、徳性、メディア、言語、表現、数量）

お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校

・ことば　前期　伝える、聞く・聴く、考える、親しむ
　　中期　聞く・伝える、ことばを楽しむ
　　後期　聞く・伝え合う、感じる・考える、文学を知る・使う

・なかま　前期　友達との違いに気付く、なかまを感じる
　　中期　出会う、環境になれる、
　　後期　仲間との関わりを楽しむ、聴く・伝えあう、生活の流れを感じて行動する、興味・関心を広げる

・からだ　前期　自分のからだを感じる、体で感じる・表現する
　　中期　思い切りからだを動かす、からだで関わりあう
　　後期　からだで感じる、からだで関わりあう、思い切りからだを動かす

・もの　　前期　感じる・考える、活かす、
　かずとかたち　中期　数・形のことばを使う、数える・比べる
　　後期　感じる・考える、数える・比べる・分ける・集める
　　形を写す・伝える

【参考資料１】平成 11 年以降の研究開発校（幼小の連携にかかる指定校のみ抜粋）一覧

1　中央区立有馬幼稚園（東京都）
平成 11～13 年度　小学校との連携を深めるための教育課程の開発
－個性と社会性が調和して育つ有馬の子の育成－

2　上越教育大学附属幼稚園、附属小学校、上越市立高志小学校
平成 12～14 年度　幼児期・児童期の発達の連続性を踏まえた幼小の連携における教育課程・指導法等の研究開発

3　香川大学教育学部附属幼稚園、附属坂出小学校、附属坂出中学校、附属養護学校
平成 12～14 年度　異校種間の教員の協力指導を通して、幼稚園、小学校、中学校の一貫教育をめざした「生きる力」を培う教育課程・指導方法の研究開発

4　滋賀大学教育学部附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属養護学校
平成 12～14 年度　幼稚園・小学校・中学校・養護学校が連携して発達段階に応じた学びの姿を明らかにし、各学校間の「接続」と「共生」を充実した一体的な教育課程の研究開発

5　宇都宮大学教育学部附属幼稚園
平成 12～14 年度　協同性の育ちの視点から幼児期に育てたいことを明らかにし教育課程の改善を図るための研究開発

6　神戸大学発達研究学部附属幼稚園、附属明石小学校、附属明石中学校
平成 12～14 年度　「社会を創造する知性・人間性」を育むことをめざした新しい教育システムの開発

7　富山県教育委員会（７－１、７－２、７－３、７－４）
平成 12～14 年度　幼稚園（保育所）と小学校が連携して、子どもに「人とよりよくかかわる力」（道徳性、社会性）を育てる教育課程の研究開発
（７－１）　富山県魚津市立経田幼稚園、経田小学校、（経田保育所）
（７－２）　富山県上新川郡大山町立福沢幼稚園、福沢小学校（福沢保育所）
（７－３）　富山県大門町立大門中央幼稚園・大門小学校（きらら保育所）
（７－４）　富山県砺波市立中野、中野小学校、（唱歌保育所）

8　岡山大学教育学部附属幼稚園、附属小学校
平成 13 年～16 年度　発達段階に応じた学習のあり方を明らかにし、基礎的な学習の充実を図り、幼稚園、小学校における教育の連携をめざす教育課程及び指導方法の研究開発

9　鳴門教育大学学校教育学部附属幼稚園
平成 13 年～15 年度　幼稚園教育と小学校教育との連携を図る教育課程や指導方法の研究開発

10　お茶の水女子大学附属幼稚園・附属小学校・（附属中学校）
平成 13～15 年度　幼稚園及び小学校における教育の連携を深める教育課程の研究開発
平成 17～19 年度　幼・小・中 12 年間の学びの適時性と連続性を考えた連携一貫カリキュラムの研究開発

11　甲南学園甲南小学校（甲南小学校・幼稚園）甲南学園（甲南高等学校・中学校）
甲南女子学園（甲南女子中学校・高等学校）（兵庫県）
平成 13 年～15 年　「人と人、人と自然、人と社会との共生」を目指す環境教育を幼・小・中・高・大の１８年一貫教育を展開する研究開発

12　三木市立吉川幼稚園、吉川小学校
平成 13～15 年度　学習主体として子どもを育てる 7 年を単位とした教育課程の開発

13　山口大学教育学部附属幼稚園、附属小学校
平成 14 年～16 年度　保護者の成長と幼小の滑らかな接続のための親学習プログラムの研究開発－幼稚園カリキュラムの新構想と低学年総合学習の構想の中で－

14　宮崎大学教育文化学部附属幼稚園、附属小学校、附属中学校
平成 14～16 年度　幼稚園、小学校、中学校の 12 年間の連続した学びの中で、豊かな人間性を養い基礎基本に支えられた確かな学力を培う教育課程

15　新潟大学人間科学部附属幼稚園、附属長岡小学校、附属長岡中学校
平成 15 年度～17 年度　創造的な知性と自然との共生の心を培う「科学的な感性、科学的なものの見方・考え方」をはぐくむ幼稚園・小学校・中学校の１2 年間を見通した教育課程の研究開発

16　広島大学附属三原幼稚園、小学校、中学校
平成 16～18 年度　幼小中一貫の教育力を生かした社会のグローバル化・高度情報化・超少子化の進展に対応する、国際的コミニュケーション能力の育成を中心とした 21 世紀型学校カリキュラムの研究開発

【研究指定学校園の概要】

○指定校園の設置者別数
- 国立（11 学校園）
- 公立（３学校園）
- 国立と公立(1 学校園)
- 私立（1 学校園）

○連携の対象
- 幼稚園と小学校の指定（６学校園）
- 幼稚園、小学校、中学校の指定（５学校園）
- 幼稚園のみの指定（3 学校園）
- 幼稚園、小学校、中学校、養護学校（2 学校園）
- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校（1 学校園）

【参考資料２】　岡山大学教育学部附属幼稚園、附属小学校

平成 13 年～16 年度　　発達段階に応じた学習のあり方を明らかにし、基礎的な学習の充実を図り、幼稚園、小学校における教育の連携をめざす教育課程及び指導方法の研究開発

【学校園の概要と研究開発への取り組み】

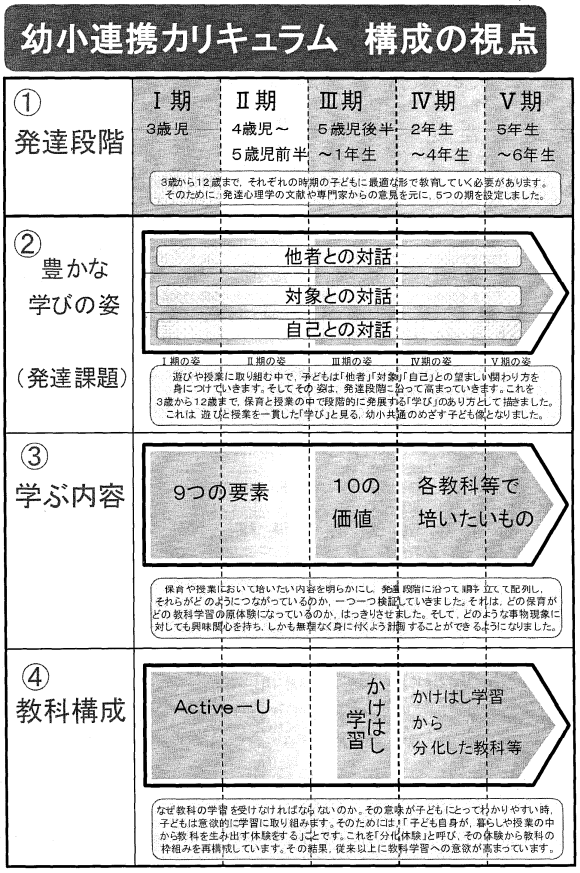
○附属幼稚園と附属小学校は隣接であり、日頃から生活科を中心とした交流があった。研究開発１年次から、幼稚園教師と小学校教師によるＴＴが行われ、授業・保育研究が行われてきた。

［教育課程の編成］

岡山大学教育学部附属小学校・幼稚園『平成１６年度研究開発実施報告書（第４年次）』を参考にしてまとめる。

○　3 歳児から 6 年生までを発達段階にそって 5 期に分け教育課程を編成する。特に、3 歳児から 1 年生までを子どもの学ぶ姿や学ぶ内容から 3 期に分けて、幼小の接続を重視した幼小連携カリキュラムを編成する。学ぶ内容の視点から考えると、「１０の価値」を 5 歳児後半から 1 年生を共通のものとし、幼稚園の Active-u と小学校の「かけはし学習」につなげている。（表８－１参照）

表８－１



（岡山大学教育学部附属小学校・幼稚園『平成１６年度研究開発実施報告書（第４年次）』より）

○　学ぶ内容のつながりとしてⅠ期・Ⅱ期は、9の要素、Ⅲ期は、10の価値として、5歳児後半から 1 年生の内容としている。それは、この時期の子どもは、事物や現象への気付きをもとにした興味や関心の程度が、Ⅰ期、Ⅱ期の子どもにくらべぐっと高くなってきているからである。(表８－２参照)

表８－２　学ぶ内容のつながり

Ⅳ期・Ⅴ期　　第２学年以降の教科等で培いたいもの
見方、考え方、判断力、実践力、態度、知識、技能

⇧

Ⅲ期（５歳後半から１年生）　　１０の価値
生活習慣、運動遊び、社会性、自然、空間、徳性、メディア、言語、表現、数量

⇧

Ⅰ期、Ⅱ期(３歳児から５歳児前半)　　９の要素
生活習慣、運動遊び、仲間意識、規範、コミニュケーション、自然事象、社会事象、表現活動、数量

○幼稚園の指導計画を作成する際、幼児の発達や興味や関心に沿って９の要素にもとづく。Ⅲ期５歳児後半から１年生にかけては、１０の価値にもとづく。また、この時期は、幼稚園の Active-u と小学校のフィールド学習とステージ学習によって構成される。(図８－１参照)

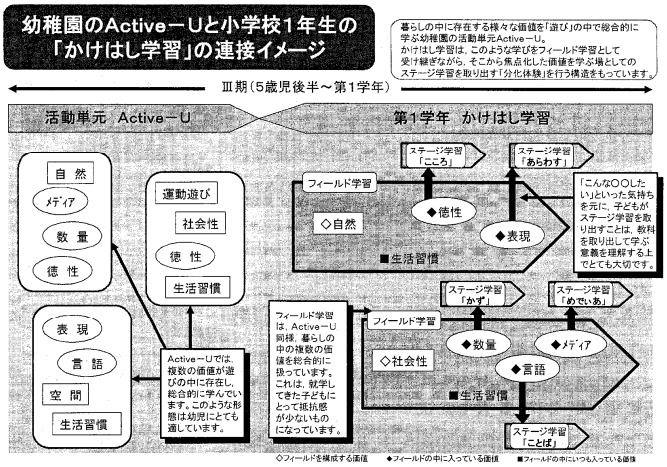


図８－１　幼稚園の Active-u と小学校の「かけはし学習」のイメージ

(岡山大学教育学部附属小学校・幼稚園『平成１６年度研究開発実施報告書（第４年次)』より)

【参考資料３】　お茶の水女子大学附属幼稚園・附属小学校・（附属中学校）

平成 13～15 年度　幼稚園及び小学校における教育の連携を深める教育課程の研究開発
平成 17～19 年度　幼・小・中 12 年間の学びの適時性と連続性を考えた連携一貫カリキュラムの研究開発

【学校園の概要及び研究開発への取り組み】
○附属幼稚園と附属小学校は、大学の敷地内にある併設校である。これまでそれぞれが特色ある教育を展開。研究開発校の指定を 2 回受ける中で、幼小の連携が深まる。

［教育課程の編成］

お茶の水大学附属幼稚園・小学校・中学校『平成１９年度研究開発実施報告書（第３年次）』を参考にしてまとめる。

○教育課程の編成において、幼小の接続期を設け、滑らかな接続を図る。接続期は「人との関係や周囲の環境が大きく変化することにともない、子どもたちの戸惑い・不安・期待・緊張などを、教師が丁寧に受けとめ支えながら、教師や友達との豊かなかかわりを基盤に、主体的に学ぶ姿勢を育む時期」と捉える。

○接続期の安定をつくる上で欠かせないものとして次の 3 点を挙げる。

1）子どもが安心して取り組める時期や空間を保証し、自分らしさを生かしたまなびをできるようにしていくこと。

2）子ども生活から生まれた興味・関心を保育・授業にいかしていくこと。

3）子どもが他者を感じることができる活動の設定や、子どもを見守り、つないでいく教師のかかわりを大事にすること。

○接続期の区分とねらい

接続前期	幼稚園 5 歳児 10 月～3 月	関わりを広め深める。小学校生活に向け体験の共有化を図る。
接続中期	1 年生入学～ゴールデンウィーク前	幼稚園から小学校生活へ安心して移行し、自分を表現できるようにする。
接続後期	1 年生ゴールデンウィーク明け～7 月	知への興味を耕し、自分で考え学んでいこうとする姿勢を伸ばす。

接続前期・自分の思いを表現し、自信をもって楽しく夢中になれる体験を豊かにもち、それを基盤にして、友達とかかわれる、かかわろうとする。相手の話を聞く、相手の気持ちを考えて行動するようになってほしい。一人一人の活動の充実が、なかまで一緒に行う体験を通して学びにつながり、仲間での体験の積み重ねが、一人一人の学びに活きてくるような、活動内容。環境の構成、教師の働きかけを意識的に行えるようなカリキュラムを作成していく。

接続中期・前期の取り組みを受け、幼稚園生活の流れに近い形での活動内容の工夫し、

小学校生活の導入をしていく。時間枠を広げ、いくつかの活動を提示し、子どもたちが主体的に選べるようにしたり、生活の流れに沿った内容を自然な形で、教師が生活の中に取り入れたりしながら、子どもたちが安心して小学校生活を営めるようにすることを第一とする。

接続後期・前期、中期の取り組みを受け、さらにそれ以降の小学校の生活・学習活動を意識におく必要が出てくる。生活に即した学びを基本とすることは言うまでもないが、学習面において、生活から取り出した形で指導する必要も生じてくる。子ども達の発達に応じ、順次段階的にそうした学習体系を生活の中に取り入れていくことを大事にした。

なお、それぞれの時期の取り組みの実際の概要を参考資料９－１としてあげた。

○接続期の保育・学習分野の構成

接続期においては、保育・学習分野として、「からだ」「もの」「ことば」「なかま」をおいた。（図 10-1 参照）また、幼小の接続期における実践の指標として、幼・小接続期学びの概要（2007 年度版）を示した。（表 10-1 参照）

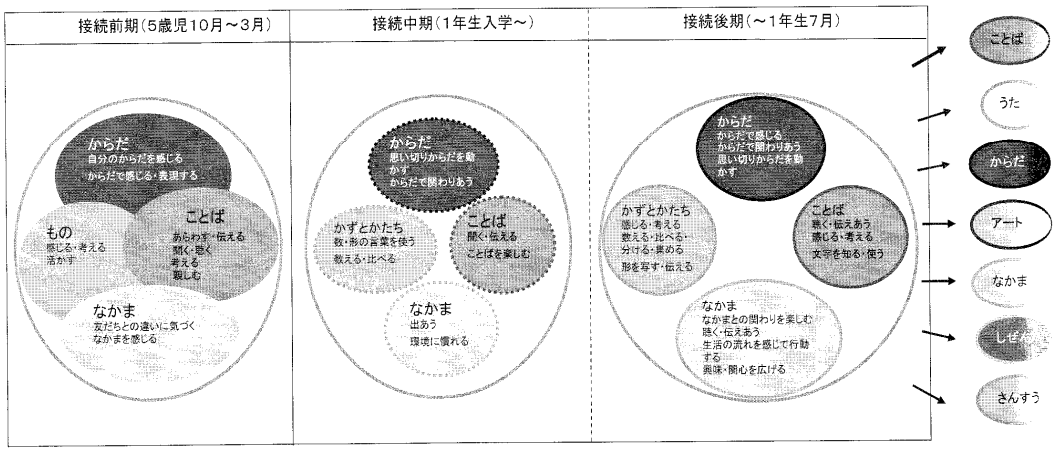


図 10-1 幼・小接続期保育分野・学習分野構想図

（お茶の水大学附属幼稚園・小学校・中学校『平成１９年度研究開発実施報告書（第３年次）』より）

表 10－１　幼・小接続期学びの概要（2007 年度版）

（お茶の水大学附属幼稚園・小学校・中学校『平成１９年度研究開発実施報告書（第３年次）』より）

ねらい	区分	ことば	なかま	からだ	もの
関わりを広げ・深める 体験の共有化をはかる	前期	**伝える** ・自分の考えや思いをことばで表現する ・相手に分かるように話す ・内容に応じたことばのやりとりをする ・わからないことを人にたずねる **聞く・聴く** ・人の話をよく聞く ・聞いたことを理解する **考える** ・ことばで聞いたことを想像する ・状況を理解して考える **親しむ** ・身の回りの文字・数字を生活の中で必要に応じて使い親しむ ・ことばのもつリズムや面白さを実感する	**友だちとの違いに気づく** ・自分とは違うともだちの思いに気づく ・役割を担い、人の役に立つ喜びを感じる ・決まりの大切さに気づき、守る ・ともだち一人ひとりの持ち味・興味・関心の違いに気づき、認めあう **なかまを感じる** ・ともだちと呼吸をあわせる （リズムを感じる・一緒に動く・一緒にうたう） ・みんなで取り組む中で、ともだちから学んだりともだちに教えたりする ・気持ちを合わせてなかまと共に一つのことに取り組む ・ともだちとアイデアを出しあいながら遊びを充実させる ・ルールのある遊びを楽しむ	**自分のからだを感じる** ・力を出し切る ・からだを動かして、繰り返し取り組む ・からだの感覚が自分のものとなってくる ・自分の気持ちと体の調和がとれる **からだで感じる，表現する** ・からだで関わりあう ・からだで音やリズムを感じる ・イメージを共有する ・イメージを動きで表現する ・体験を通して生活に必要な習慣を身につける	**感じる・考える** ・草花や飼育物をいたわり、その命の大切さを実感する ・自然に親しむ中で、その不思議さ・美しさを感じ取る ・ものの性質、量感、形などを感じる ・遊びや生活の必要に応じて数えたり比べたり分けたりする ・ものごとに関心をもち、追究する **活かす** ・ものを大切に扱う ・ものの性質を活かし、遊びに取り入れる ・イメージを伝えあい、ともだちと協力してつくりあげる ・園内の環境(季節)を充分に活かして遊ぶ ・みんなが楽しめるものや場をつくる
小学校生活へ安心して移行し、自分を表現できるようにする	中期	**聞く・伝える** ・自分のことを話す ・最後まで聞く ・発見を伝えようとする ・思いをからだやことばであらわす **ことばを楽しむ** ・身近なものをあらわすことばを知る ・みんなで声を合わせる	**出あう** ・みんなの中の自分を感じる ・学校のことを知る ・自分でできることは自分でする ・まわりの子に気づく ・新しい場所で発見する ・季節を感じてあそぶ **環境に慣れる** ・友だちと一緒にふれあう・やってみる ・新しい集団で自分を表現しようとする ・発見を伝えようとする ・繰り返しやってみる	**思い切りからだを動かす** ・みんなでできるあそびをする ・思い切りからだを動かす **からだで関わりあう** ・みんなで集まる・順番にならぶ ・からだを近づけてともだちを感じる ・いっしょに音を楽しむ ・リズムを感じる ・感覚でとらえる （息を合わせる・気づく・ふれあう・目で見る・聞く・全身で感じる） ・身近なものとのふれあいから感じる ・みんなでいることを心地よく思う	**数・形の言葉を使う** ・数や形をあらわすことばと出あう ・数え方や数詞を知る ・場所や量をあらわすことばを知る **数える・比べる** ・順序数と出あう ・形を比べる
知への興味を耕し、自分で考えて学んでいこうとする姿勢を伸ばす	後期	**聴く・伝えあう** ・自分の思いを伝えようとする ・聴きあおうとする ・話を最後まで聞く ・発見やお気に入りを紹介する ・伝えるためのことばで表す **感じる・考える** ・事象や友だちの考えについて疑問をもつ ・自分とは違う友だちの思いに気づく ・様子や気持ちを想像する **文字を知る・使う** ・生活の中のことばを集める ・生活とかかわりのあるお話を読む	**仲間との関わりを楽しむ** ・仲間と息を合わせ、一緒にやってみる ・学校の人とつながる ・考えをだしあう ・協力してつくる ・やりたいことを迷いながら選んで決める **聴く・伝えあう** ・相手を意識してわかるように表す ・発見をまるごと受けとめる ・伝えあおうとする **生活の流れを感じて行動する** ・目的をもつ ・生活の流れや見通しを感じて行動する ・準備や片付けをする **興味・関心を広げる** ・見たり触ったりして、ものの形や様子を感じる ・詳しく見て表す ・成長するものを見続ける ・育てる喜びを感じる ・つくったことから発見する ・ためしてみる	**からだで感じる** ・感覚でとらえる （息を合わせる・気づく・ふれあう・目で見る・聞く・全身で感じる） ・リズムを感じる ・特徴をとらえて動く ・声の大小・高低を聞き分ける ・一緒に音楽遊びを楽しむ **からだで関わりあう** ・動きをまねる ・友だちと一緒の活動を心地よく思う ・仲間と息を合わせ、一緒に活動する **思い切りからだを動かす** ・思い切りからだを動かす ・みんなで遊ぶ ・固定遊具で遊ぶ ・場所を生かして遊ぶ ・繰り返し取り組む	**感じる・考える** ・数や形を表す言葉をつかう **数える・比べる・分ける・集める** ・いろいろな二量を比べる ・身近なものから同じ数を集める ・数の合成と分解を行う ・大きさ比べ・数比べをする ・具体場面から数を抽象化する **形を写す・伝える** ・数や形を表す言葉をつかう ・位置を説明する ・身近な形をよく見て写す ・形を組み合わせてつくる